



# Koryo 陵 雲 High School

〒031-0011 青森県八戸市田向二丁目2番6号 / 電話 0178-44-3866 / FAX 0178-43-9077  
<https://koryo-high-school.com> / Eメール koryo@chibagakuen.ac.jp

## ご協力ありがとうございました



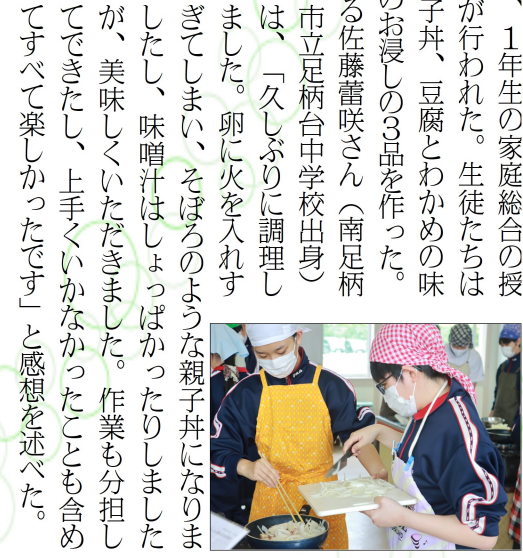
6月5日(月)から9日(金)まで、PTAの方々による挨拶運動が行われた。生徒たちは、いつも以上に元気な挨拶をする者、恥ずかしそうに会釈をする者、様々だったが、毎朝保護者の方々から元氣と笑顔を分けてもらった一週間となった。最終日は、雨の降る中での挨拶運動となったが、たくさんの方々にご協力をいただき無事活動を終えることができた。

## 朝の挨拶運動

## 調理実習



6月9日(月)、1年生の家庭総合の授業の中で調理実習が行われた。生徒たちは各班に分かれ、親子丼、豆腐とわかめの味噌汁、ほうれん草のお浸しの3品を作った。下宿生活をしている佐藤啓哉さん(南足柄市立足柄台中学校出身)は、「久しぶりに調理しました。卵に火を入れないで、そぼろのような親子丼になりましたし、味噌汁はしょっぱかったりしましたが、美味しくいただきました。作業も分担してできたし、上手いかなかったです。作業も分担してすべて楽しかったです」と感想を述べた。



## ストレス対処法を学ぶ

6月12日(月)1年生のLHRで、本校のスクールカウンセラーである石岡れい子先生から「自分を大切にしよう」として講演会が行われた。ストレスとは周りからの様々な刺激によって心や体に負担がかかった状態のこと。自分のストレスの対処方法と友達が辛そうにしているときの対処方法をワークシートへ記入し、グループで発表し合った。「一人で抱え込まないで、信頼できる大人に助けを求めよう」と石岡先生は語り、その後、「ワカバ」という曲を紹介し、自分を大切にしようとして改めて訴えた。佐々木結香さん(明治中学校出身)は、「色々な対処法を知ることができて面白かったです。辛いときは誰かに相談することが大切だとわかりました。友達が苦しんでいるときは話を聞いてあげようと思いました」と感想を綴った。



## キャリアデザイン

6月14日(水)7校時に2年生を対象とした就職セミナーが行われた。今年度は、新たな取り組みとして、キャリアプロデューサー株式会社の桑名様に協力いただき進路活動を進めていく予定。この日はオンラインでの活動となったが、第1回目ということで、桑名様の自己紹介とともに進路についての考え方を説明いただいた。なぜ今の職業に就いたのか、実際に出会った生徒がどのように就職していったのかを紹介いただき、生徒たちはメモをとったり、セミナー終了後には積極的に質問したりと、自分の進路や将来について真剣に考えていた。

## 薬物乱用防止・非行防止教室



6月19日(月)、八戸警察署から上村様、宮崎様を講師にお迎えし、全校生徒を対象に薬物乱用防止・非行防止教室が行われた。上村様は、薬物の恐ろしさを訴えるとともに、自分を守るの自分しかいないとし、「ノー」と言える自分になることの大切さを述べた。また、宮崎様は、交番勤務時代に目にした薬物依存者の様子や自身が警察官になるという夢を叶えるために努力された経験をお話下さった。最後に「『やろう』という気持ちがあれば何歳になっても、いつでもスタートできる、何事も頑張ってください」と全校生徒にエールを送った。

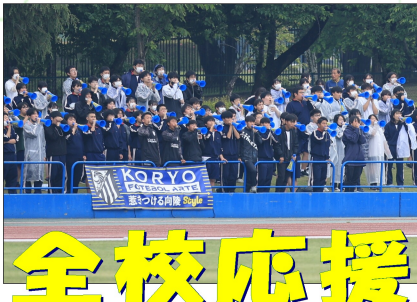
## 進路ガイダンス

6月22日(木)、3年生対象に進路ガイダンスが行われた。5校時は希望進路ごとに受験準備、対策についてお話を聞いた。また、6校時は面接指導や各試験形態に合わせた、より具体的な指導を受けた。生徒たちは、実際に「書く・話す」作業に苦戦しながらも2時間取り組む、進路活動のスタートを実感したようだった。



## 高総体

6月2日(金)、青森県高校総体サッカー競技大会が地元八戸で開催。本校は会場となった東運動公園に全校で集結し、サッカー部員とともに、東奥義塾戦に挑んだ。時折小雨の降る会場には、全校生徒による応援歌が響き渡った。結果は0対3と敗れたが、部長の山家昌悟さん(3年・平塚市立土沢中学校出身)は、



## 全校応援

報告会で「全校応援のお蔭で素晴らしい雰囲気の中、プレーすることができました」と感謝の意を述べた。

## 3部リーグ後期開幕



6月18日(日)県3部リーグ後期が開幕した。開幕戦の相手は野辺地西3rdチーム。本校は立ち上がりから失点し0対1で前半を折り返した。後半、途中出場の菊地龍聖さん(2年・常総市立石下中学校出身)からの縦パスに飛び出した龍田琉生さん(1年・品川区立立川中学校出身)が右足で合わせて同点とした。しかし、同点もつかの間、再びリードを許し、開幕戦は1対2で敗れた。次戦は、6月25日(日)。三本木高校グラウンドにおいて、13時半から三本木高校との対戦となる。

## 全校バス遠足

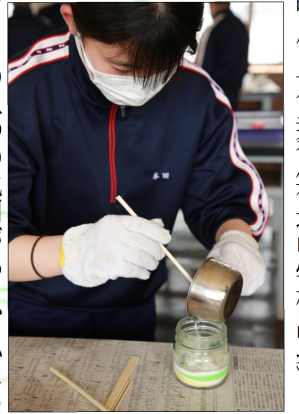


6月16日(金)、数年ぶりの全校バス遠足が実施された。場所は小岩井農場。生徒たちは、事前に農場内の国指定の重要文化財について調べたり、小岩井農場の歴史について情報収集しながらこの日を迎えたが、当日はあいにくの雨となった。それでも園内移動バスに乗ったり、アーチェリーに挑戦したり、農場ならではの土産選びを楽しんだりした。重要文化財に指定されている現存の牛舎を見学したという野坂琉偉さん(3年・白山台中学校出身)は、「百年を越えている牛舎で牛たちがのんびりしているのは、感慨深かったです。岩手山を望める晴れた日にまた来たいです」と話した。

# キャンパルクラフトコース

1年 鴨川 友里奈(福地中学校出身)

まず初めに口ウには様々な種類があることを教えていただきました。人の体温ぐらいで柔らかくなる口ウ、普段よく見かける熱すると液体状になる口ウ、ジェル状の口ウの三つの説明があり、私たちはまず体温で柔らかくなる口ウを使用しました。薄い板状になっており、最初触った時はプラスチックのように硬かったのに、だんだんと粘土のように柔らかくなっていくのが不思議でした。ただ粘土とは違う点の一つだけありました。それは、色を制作する過程です。例えば、絵具や粘土で紫色を作ろうとすると「赤」と「青」を混ぜるかと思いましたが、口ウにその法則はききません。どうしてなのか灰色っぽいものができました。その後も私は色の組み合わせに苦戦し続け、混ぜて色を作ること諦めました。ですが先輩方は上手に自分の思い描く色を作っていました。少しコツがあるみたいです。次に普通の口ウでそぼろ状のものを作りました。口ウを冷やす段階で、容器のふちに冷えた口ウが固まって行くのを見逃さずにはぐします。この作業を何度も繰り返します。繰り返すことでそぼろ状の口ウができあがります。私はこれをドーナツの型にはめ、すごくリアルなドーナツ型のキャンパルを作りました。最後にジェルキャンパルを作りました。これは、小学校の時に一度やったことがあったので、スムーズに完成しました。様々な口ウを目で見て、手で触って特性を生かしてキャンパルを作り、貴重な体験ができました。



キャンパルクラフトコースの作品は、ドーナツ型のキャンパルとジェルキャンパルです。学生たちは、色を混ぜることで様々な色を作り出し、リアルなドーナツ型のキャンパルや、ジェルキャンパルを作りました。これは、小学校の時に一度やったことがあったので、スムーズに完成しました。様々な口ウを目で見て、手で触って特性を生かしてキャンパルを作り、貴重な体験ができました。

# フェイクスイーツコース

1年 小田 紗織(江陽中学校出身)

ポンドや糊を使いパフェ作りをしました。ソースやアイスの部分は、好きな色の紫にしました。クリームとソースの層を作り、上をクリームで蓋する時、ソースが溢れ始めが大変でした。「格好いいのを作ろう」といって自己課題は達成できませんでした。写真立ては成功しました。

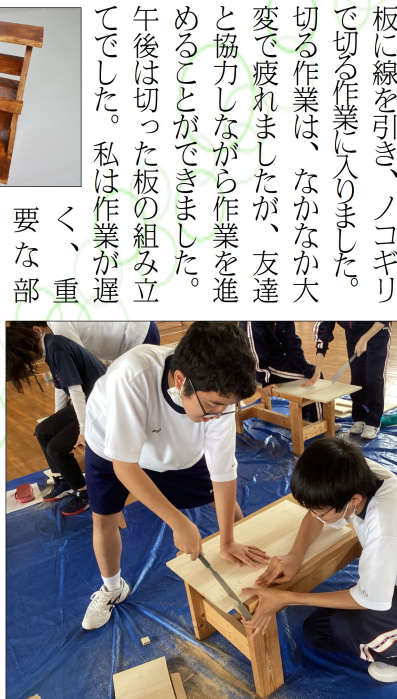


# 木工工作コース

1年 高橋 知大(下長中学校出身)

ノコギリで木を切ることがとても大変でした。しかし、時間が経つにつれ使い方も慣れ、切る作業も楽しくなってきました。

最初は設計図を見ながら板に線を引き、ノコギリで切る作業に入りました。切る作業は、なかなか大変で疲れましたが、友達と協力しながら作業を進めることができました。午後は切った板の組み立てでした。私は作業が遅く、重要な部分には先生に手伝ってもらったことが多かったです。でも諦めず作業をしてシェルフを完成させることができました。これからも、周りの人と協力して何事も最後まで挑戦したいと思っています。



木工工作コースの作品は、シェルフです。学生たちは、ノコギリで木を切り、板に線を引き、ノコギリで切る作業に入りました。切る作業は、なかなか大変で疲れましたが、友達と協力しながら作業を進めることができました。午後は切った板の組み立てでした。私は作業が遅く、重要な部分には先生に手伝ってもらったことが多かったです。でも諦めず作業をしてシェルフを完成させることができました。これからも、周りの人と協力して何事も最後まで挑戦したいと思っています。

# 是川縄文館コース

2年 林 玲音(鎌倉市立大船中学校出身)

昨年と同じコースでしたが、楽しめたと、たくさん面白い話を聞くことができました。縄文土器作りは、凄く難しく、手先の器用さや丁寧さが試されました。正直、細かい作業は苦手でしたが、実際やってみるとボランテイアの方々のご指導もあり楽しい活動となりました。「縄文」について話を聞きながら作業したり、展示物を見ながら昔のことを想像すると「どのようだったのか」というのが、私達の子供たちにとっては、私達の祖先の器用さに感じました。遺跡の発掘現場も見せてもらいましたが、意外にも普通の場所で見ました。昨年知った情報を踏まえてさらにじっくり見学できたし、今年からは今年でまた違った観点から縄文時代に触れることができて良かったです。



# そば作りコース

3年 榎館 謙信(船橋市立宮本中学校出身)

そば作りは、全くやり方も分からないうし不安もありました。しかし、普段全く料理をしない自分が、そばを作る機会があるとは想像もしていなかった。講師の方から最初の方に教えて下さったときは、手際の良さから簡単にできるのではと思ってしまいました。実際は逆で生地が上手くまとまらなかつたり、菊練りなども全くできまらなかった。講師の方に助けていただきながら何とか生地を伸ばして切るところまでいきました。けれども、切る作業も難しくテンポも悪く、太さもバラバラでした。でもいざ食べてみると太めのそばも食感が良くとても美味しかったです。やり方やコツも教えていただいたので、機会があればまた作ってみたいです。

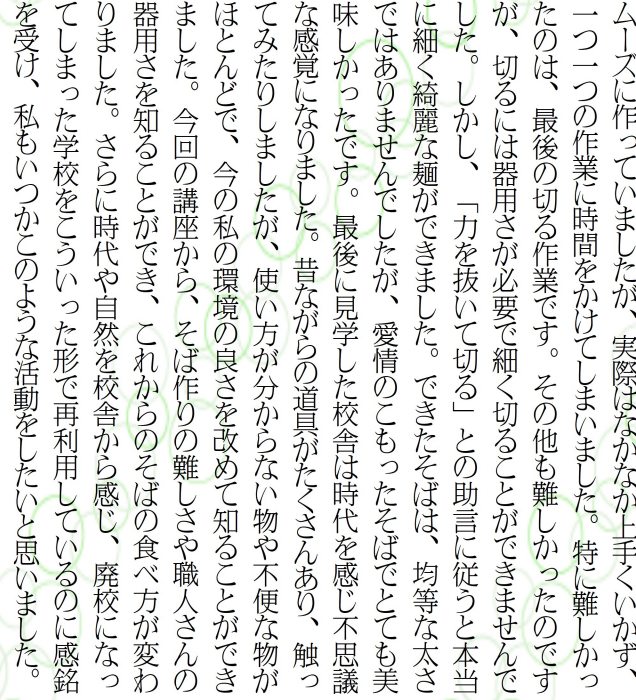


そば作りは、全くやり方も分からないうし不安もありました。しかし、普段全く料理をしない自分が、そばを作る機会があるとは想像もしていなかった。講師の方から最初の方に教えて下さったときは、手際の良さから簡単にできるのではと思ってしまいました。実際は逆で生地が上手くまとまらなかつたり、菊練りなども全くできまらなかった。講師の方に助けていただきながら何とか生地を伸ばして切るところまでいきました。けれども、切る作業も難しくテンポも悪く、太さもバラバラでした。でもいざ食べてみると太めのそばも食感が良くとても美味しかったです。やり方やコツも教えていただいたので、機会があればまた作ってみたいです。

# 煎餅焼き器がまのコース

3年 佐々木 俐玖(名川中学校出身)

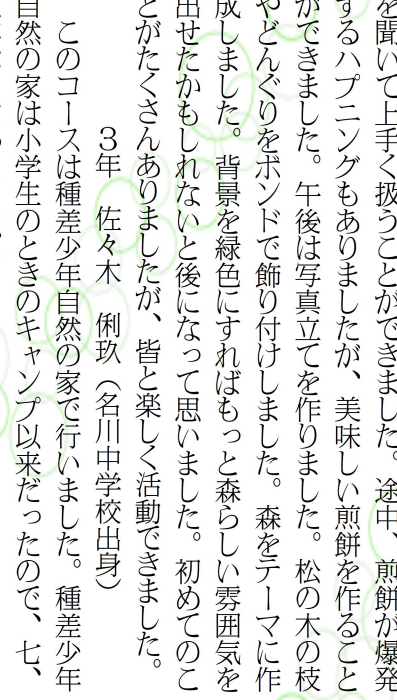
このコースは種差少年自然の家で行いました。種差少年自然の家は小学生のときのキャンプ以来だったので、七、八年ぶりだったと思います。当時もとても貴重な体験をさせていただいたので今回の体験にも興味がありました。私たちの地方に古くから伝わる南部煎餅を、一から作る体験をさせていただきました。その場で美味しくいただきました。煎餅作りで特に大変だったのは焼く作業です。火元に近づいての作業だったので日差しとであつかったです。あつさを耐えてできた煎餅の何とも言えない甘さは癖になります。昼食を挟み、自然素材を使った写真立てを作りました。アートのような作品ができたと思います。普段できないことを行い、皆で協力して一つのことに取り組む素晴らしい経験を改めさせていただきました。



# 煎餅焼き器がまのコース

1年 渡邊 一輝(横浜市立中山中学校出身)

煎餅焼きは、同じグループの人と協力してゴマやクルミ、ゆかりなどを入れたものを作り、美味しく食べることができました。どんぐりアートでは、私はどんぐりに色を塗ってオリジナルのトトロを作りました。木と小枝を使って表現し可愛く仕上がったので家に飾りたいと思います。



煎餅焼きは、同じグループの人と協力してゴマやクルミ、ゆかりなどを入れたものを作り、美味しく食べることができました。どんぐりアートでは、私はどんぐりに色を塗ってオリジナルのトトロを作りました。木と小枝を使って表現し可愛く仕上がったので家に飾りたいと思います。



煎餅焼きは、同じグループの人と協力してゴマやクルミ、ゆかりなどを入れたものを作り、美味しく食べることができました。どんぐりアートでは、私はどんぐりに色を塗ってオリジナルのトトロを作りました。木と小枝を使って表現し可愛く仕上がったので家に飾りたいと思います。